

地域にはばたく市民パワー！

ところざわ倶楽部「広場」

所沢市民大学修了者の会 広報紙

2014 年 7 月号 (第 74 号)

発行責任者 薄井 文子



「荒幡富士」山開き
撮影/長岡 慶一

県施設の防災体験

太陽光発電所と環境学習施設を巡る見学会バス旅行へのお誘い

主催：ところざわ倶楽部 地球環境に学ぶサークル

日時：平成 26 年 10 月 8 日 (水)

参加費：2000 円 (交通費・入場料他)

募集人員：30 人 期限：9 月 8 日 (月)

申し込み先： 塚本二郎 ☎04-2942-3117

今回は以下の 4 施設を見学、体験学習する事にしました。詳細は別添えのチラシをご覧ください。埼玉県中央部の秋の一日を学びつつ楽しみませんか。

(1) 埼玉県防災学習センター

災害に強い地域づくりのため、地震や暴風などの災害時の対処方法を体験、学習する施設です。

●震度 7 の揺れを体験

●毎秒 30m の暴風の迫力を実感

等いろいろな体験の他にビデオ・ミニシアター等による教育もあります。

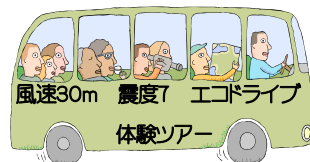
(2) 埼玉県行田浄水場

県でのメガソーラー第 1 号です (2012 年 3 月

1.2MW) 今は昨年 6 月に完成した寄居の環境整備センター廃棄物埋め立て跡地の 2.6MW に越されています。因みに所沢の北野一般廃棄物処分場跡地は 1.05MW です。敷地内浄水設備は管理本館屋上から個々の設備、役割等をご説明いただきます。

(3) 埼玉県環境科学国際センター

センターの持つ機能の中でも、環境問題について気軽に楽しく学習できる体感型展示を中心に見ます。エコドライブの疑似体験



他いろいろ挑戦してく

ださい。なお天気が良ければ、外に生態園があり自然を観察できます。

(4) ソーラーオンザウォーター桶川

桶川市と業者との共同開発した、調整池上にフロートをいかだ状に並べその上に太陽光パネルを設置した。水面の上下、強風の影響等に耐える設計になっているとのこと。川越市でも工事中のものもあり、調整池の有効活用が広がるか。

講演「事業仕分けと施設仕分け：その現状と可能性」報告

河登 一郎

傍聴席は6月16日「構想日本」総括ディレクター伊藤伸氏を迎えて、「事業仕分けと施設仕分け:その現状と可能性」と題して講演会を開きました。以下はその講演の要点です。

1. 「行政の事業仕分け」とは

- (1) 予算項目ごとに行政サービスそもそもの必要性和、実施主体について、
- (2) 「公開の場で」「外部の目を入れて」「ゼロベースで」「具体的に」議論し、
- (3) 「不要」「民間」「市町村」「都道府県」「国」と仕分けして行く作業です。



- (4) 194自治体、政党（自民・民主）、民主党政府で実施されました。
- (5) 多くの場合、「仕分け人」

は行政事業に詳しいプロ（他自治体職員、公認会計士、弁護士、学者など）が、行政職員と意見交換し、実態を評価した上で、上記（3）のように分類します。

- (6) 計画によらず決算（実績）でチェックします。
- (7) 仕分け結果を実行するか否かは行政が判断することですが、実施した約2,200事業のうち、結果の65%はその通り実施、8%はより厳しく、12%は実施されず、15%は未定/不明です。

2. 講演の中から

- (1) 従来、社会の公的ニーズは「官」が、私的ニーズは「民」が担ってきたが、今後は公的ニーズの一部を民が担わざるを得なくなる。（自助・共助・公助）
- (2) 英米では公的ニーズの一部を官が担い、営利部門も非営利部門も民が担うケースが多く効率的。日本では営利・非営利とも官が過剰に介入し非効率。
- (3) 事業仕分けは首長が積極的な自治体ではうまく行くが、行政が積極的でない場合には議会主導が有効。但し、会派主導では纏まりにくいので「議会」として取り組むことが重要、そこに議会のチェック機能が発揮される。
- (4) 「無作為抽出による市民判定人」は意外に厳しい判定をしている。
- (5) 自治会：行政主導の自治会「下請け」では成果は期待できず、地域の自主的提案を重視すると効果が上がりやすい。
- (6) 公共施設の老朽化対策：多くの行政文書では、築後年数や金額のみの記載が多い。施設の機能や使いやすさが重要。

平成 26 年 6 月理事会報告

総務部長 森下尚洋

6月理事会は2日（月）に開催された。

1 会長事案

5月30日開催の文化祭が無事終了できたことに、関係者に対しお礼申しあげる。

2 総務部事案

(1) あり方検討委員会経過報告

6月30日に倶楽部設立に係わった先輩の意見を拝聴する予定。「会則、細則、運用規定」の修正案を提示する。

(2) 「ところざわ倶楽部事業主催の考え方」の案を資料に基づき説明。

「運用規定」の中で「事業主催」の項新設予定。次回理事会で修正案を提出する。

3 事業部事案

(1) 文化祭の総括

- ・次回理事会までに関係者から意見、要望、評価を聞いて報告する。

- ・理事からは「途中休憩があったらよい」「出演時間にばらつきあり」「受付、展示物の担当者の受け持つ時間の配慮が必要」「アンケート内容、回収方法の検討」などの意見あり。

(2) 文芸講座開催

- ・参加者数99人（会員70、一般29）
- ・本日中に案内葉書を投函する。
- ・7月1日オプション「子規庵と大龍寺を訪れる」は講座第1日目に参加者を募集する。

(3) パソコン講座検討中

4 広報部事案

広場6月号の内容、7月号の紹介は、理事会開催が一週間繰り上がり準備できないためメールにて報告する。

アンケートから見た第3回文化祭

事業部長 杉浦正紀

第3回ところざわ倶楽部の文化祭は5月30日（金）中央公民館ホールで開催され約200名の来場者があり盛況裡に終わることが出来ました。これも、偏に、ところざわ倶楽部会員皆様のご協力、ご支援の賜物と感謝申し上げます。

今回も、スタート当初（2,3月頃）は出演品目、出演者はあるのだろうかとか、展示品はちゃんと出展されるのだろうかとか多少心配はありましたが、日を迫る毎に参加者の数が増えていき、特に舞台部門では時間調整をどうしようかと考えるぐらいの出し物があり新メニューの「根古屋城址紹介」「安来節」「とこしゃん体操」もかなり好評でした。

展示部門でも多くの出展品があり、ここでも「羽子板製作実演」といった新しい試みも実施され好評でした。

アンケート結果についてみると

I.「文化祭」全体は如何でしたか？

「良かった」 77%

II. ステージは如何でしたか？「楽しかった」 70%

III. 展示は如何でしたか？

「良かった」 58%

アンケート結果及びサークルメンバー皆さんの意見を集約してみると

（良かった点）

- ① どじょうすくい ユニークでたのしかった
- ② 写真部門と絵画部門は素人とは思えない 感心しました
- ③ 「根古屋城」についてのレポートは貴重で参考になりました
- ④ とことこバンド最高です
- ⑤ 皆さんの努力されている過程がよかった

（悪かった点、改善点）

- ① 改善余地あり、コンセプトがはっきりしない
- ② 出し物にもうひと工夫がほしい
- ③ 出展者が時間を決め解説する機会を作ってほしかった
- ④ 展示の見学者が少なかった
- ⑤ 社会奉仕、施設訪問等も考えて見たら来年も又、いろいろなアイディアを出し合ってさらに充実した文化祭が開催されることを祈念申し上げます。



「第3回文化祭」アンケート集計表

1. 参加人数

総参加数 184名	倶楽部会員 124名	67%
	一般参加+市民大学 60名	33%

2. アンケート内容

○回収数 43 枚 回収率 23%（小数点以下四捨五入、以下同じ） <43/184人>

男：28名	50才以下	50代	60代	70代	80代
女：15名	—	—	16名	25名	2名

倶楽部会員	市民大学	一般
34名（79%）	5名（12%）	4名（9%）

I 「文化祭」全体は如何でしたか？

1. 良かった	2. 普通であった	3. 面白くなかった
33名（77%）	7名（16%）	3名（7%）

II ステージは如何でしたか？

1. 楽しかった	2. 普通でした	3. 改善の余地あり
30名（70%）	11名（25%）	2名（5%）

III 展示は如何でしたか？

1. 良かった	2. 普通でした	3. 工夫が必要である
25名（58%）	16名（37%）	2名（5%）

第3回文化祭を終えて

文化祭で活躍、盛り上げていただいた
出演、出展者4人の奮闘記。

新たな段階に入った文化祭

《演芸部門》若山 昭

第一回目の文化祭から演芸部門担当として関わってきた私には、年を追うごとに出場者数も増えて盛大になってきたなと感じられる。1回目では早くから出場者を募集したにもかかわらず、なかなか集まらず開催を危ぶんだ。しかし、今回の文化祭では10組の出場申し込みで、開催を30分繰り上げて3時間の長丁場の舞台となった。また、各出場チームも衣装を揃えるなど、工夫をこらして大いにこのお祭りを盛り上げていただけたと思う。当初は、活発に講演会やイベントを企画開催している農業・自然系のサークルや社会系のサークルに較べて、その存在がアピールできていない文化系サークルに発表の



場をとという目的と、倶楽部の会員がサークルの枠を超えて親睦をはかるという目的でスタートした「文化祭」であるが、今年で新たな段階に入ったと感じざるを得ない。ともあれ、「とことこバンド」にファンがいてくれることはとても心強いし、素直に嬉しいなァ〜！ 次回、皆さんにお会いする時には新しいメンバーをご紹介します。

「とこちゃん体操」で健康普及を

《演芸部門》海老澤 愛之助

私は、昨年文化祭に参加して作品の発表や演芸では、出演しなければその面白みを感じられない事を実感した。たまたま「お達者クラブ」を地元で立上げ、その活動の中で「とこちゃん体操」を取り入れているので「所沢市教育委員会」主催の健康体操指導者養成講座に参加、倶楽部で一緒にいた方々がおられ相談。文化祭の中で「とこちゃん体操」を発表する事で健康体操の普及に協力でき、会場の参加者の気分転換に一役買うことができると参加することに意見が纏まった。早速、所沢市の職員でこの体操の考案者でもある海老澤先生にもご参加頂く了解を取り付け当日に臨んだ。ぶっつけ本番で心配をしたが、観客席の反応も良く参加者ほぼ全員が手を上げ体を動かしてのパフォーマンスをして頂き、本当に感激した。所沢市の担当職員の方からも楽しく良かったとのコメントもあり来年も機会があれば多くの方に前に出での参加を期待したいものである。



大きく深呼吸「どうにかなるだろう」

《展示部門》山本 苗子



文化祭展示部門の実行委員を頼まれて「資格もないのに出来るだろうか」と悩んだ時につぶやいた。出品申し込みを頂いた展示物の種類、寸法、枚数との、にらめっこの日が続く。

出来上がった配置図を参考に理事の方と出品者の方々のエネルギーとアイディアで展示場は、見る見る出来上がった。賑わっているなか、作品に興味を持たれた方々から「これはどの様にして作るのか、描くのか」などの質問に、みんな快く対応しているようだった。何か習い事を始めようと思っていた方も参考になり、一步を踏み出す機会になったのでは。会場のあちらにも、こちらにも、小さな新しい交流が見える。大きな成果だと感じた。また、迷いながら出品を決意した方も、ご自分の勇気に喜びを覚えたのではないのか。そして、私も皆様に助けられ「どうにか成った」安堵とともに、うれしい日になった。

「革工芸」製作の夢を追い求めて

《展示部門》斎藤 博子

友人が革で作ったメガネケース、セカンドバッグを見た時「私も作ってみたい」と思ったのがきっかけでした。ただ作るのではなく、目標をもって過ごしたいと思い、資格をとることにしました。日本革工芸展にも3年続けて入選、しかし工芸家になるセンスはないと自覚、バッグづくりに専念しましたが、レザークラフトは、表裏とも皮を使うので、重くなります。年齢を重ねると、少しでも軽いものを持ちたくなり、鷲ノ宮の職人さんのところに通いました。自分で持ちたいバッグ、本に載っているものなど素材を選び、製図から作品に作り上げる工程を楽しんでいます。しかし自己満足で終わっているように思え、1年に1度友人たちと、有楽町交通会館で、作品展（今年で28年目）を開き、見に来てくださる人たちの意見や反応を参考にしております。革から皮へ35年、長い付き合いです。※革は、タンニンでなめしてあり、カービング、工芸などに使い、皮は、クロームでなめしてあり、洋服、バッグなどに使われています。



特別寄稿

落ち着いて老いさびたクニ…所沢

栗田 博行 「人間・正岡子規」講師

気迫溢れた正岡子規講座。講師の元NHKプロデューサー、栗田氏が見たところざわ倶楽部会員像は？



講座を準備中、倶楽部事務局の方から「受講申し込みが、90人を超えまして」とのお知らせがあり、エッと驚きました。新宿のカルチャー教室で

周辺地区へ20万枚をこえるチラシを配布して、結果が2～3人という経験をしていたからです。知人友人に声をかけてなんとか講座の催行にはこぎつけましたが、「そうか…正岡子規への関心、そんなものか」とガックリしたことがありました。ですから「なぜここで？」と、嬉しい疑問が残りました。

次に驚いたのが、受講者の皆さんの反応の良さでした。私の講義は2時間の全時間、映画館並みの真っ暗闇で進めます。おそらく類がないでしょうが、200枚近い資料画面を提示し続けます。ですから皆さんの表情は私には見えず、私の表情も皆さんには見えません。しかし、皆さんの受け止めの様子は、活動弁士なみにしゃべりまくっている講師の私にも、充分に分かるのです。クスクス、ハハハ、時にはドッと大笑い。子規の原文が含むユーモアに応じて、暗闇からの的確に笑いが生じるのです。そして一方ではシーンと静まりかえる時間…。終わって灯りをつけたあと「泣いてしまいました」と言いにくくれた方もいました。

この人数の多さとこの受け止めの深さ・的確さ…これはイッタイ何なのか？

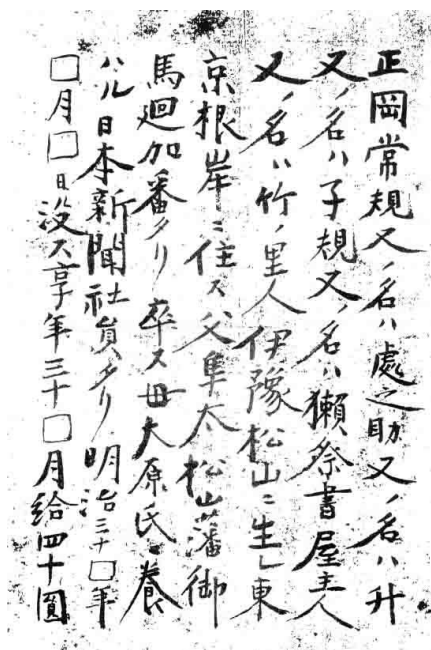
この自問自答は、講座3回目を終えたとき、私の中では解決しました。この回私は、子規を愛して止まなかった司馬遼太郎さんの次の言葉を話のキーワードにしました。「繁栄は続きません。産業の神様は必ずよそへ移ります。その時、落ち着いて老いさびたクニに、日本をどう作って行けるのか…土俗の日本人として、真剣にそれを考えないと…」。バブルもピークに向かおうとする昭和61年に、司馬さんから、じかに聞いた言葉でした。食らない子規の精神のあり方を、日本人

への大事なところのテキストと言い続けた司馬さんのハートに結びつけて、紹介したのです。話し終わって、通じたのかな？という迷いを感じていた私に、「今日はココダと思いました」と言いにくくれた方がいました。

司馬さんのいう、目指すべき「落ち着いて老いさびたクニ」とは、いったいどういうことだろう？…長く引っ張ってきたこの自分のうちの問いに、新たな答案例を得た気がしました。

戦後に開発されたニュータウン、歳月を経る中でそこに積み重ねられたよき営みの数々、そして、ひとびとの成熟。街路を埋める樹木の緑の深さのようにそこに蓄えられたものの一つに、この生涯学習の土壌があるのではないかな。この人数とこの

リアクションの良さは、そこからくるんだな、と。そして、日本じゅうがこのようなマチで埋められた時、司馬さんのいう「落ち着いて老いさびたクニ」が実現するのではないかな、と…。



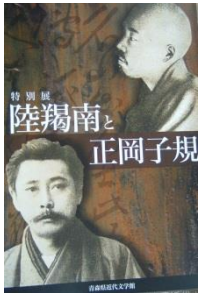
正岡子規自筆墓誌銘（明治三十一年七月十三日書）

明治人の人格形成物語「人間・正岡子規」を受講して

ある先見の明 大英断について

園田 靖彦

俳句を始めて今年で9年目、俳句結社に入って9年目、私はいま3日に1回の割合で句会、吟行句会、ネット句会に参加している。即ち1カ月に10回、年間120回前後の俳句会に参加していることになる。



さて、今回の講座を受講して、たくさんの感動をいただいたが、スペースがないので、1つに限って述べよう。

それは、新聞『日本』創刊者・陸羯南（1857-1907）が、よくぞ子規を自社社員として採用し、自紙に俳句欄を創設するなどし、諸々親身になって、子規の面倒をよくみたなあ、とても羯南以外ならば、こうはいかないと思うことだ。

子規は彼にとって友人・加藤拓川の甥。初対面の時は、叔父が会いに行けと言ったので来ました、とそれだけしか言わぬ、どこか無頓着な書生っこだった。その子規は、勝手に大学を中退して、勝手に路頭に迷い、羯南に相談に行き、なんと社員にしてもらうのだ。また、羯南は、後で述べているように、俳句など少しも造詣がなかったのに、俳句欄を新設し、彼に活躍の場を与える。俳句は当時の社会的地位は低かった。短歌が京都の公家を中心に形として完成していたのに対して、江戸の庶民を中心に親しまれていた俳句は、一方で下品で、とても活字にして新聞に掲載するようなものではないと思われていた。子規当人も最初は小説家を夢みていた。小説は一等の文芸と思われていたのだ。しかし尊敬する露伴に小説家の才能がないと断言され、渋々、俳句に力を入れ始めたのだった。



歴史に「たら・れば」という仮定話は禁物だが、もし羯南が子規を自社の社員に採用しなかったら、そして俳句欄を創設しなかったら、その後の短詩系文学はどうなっていたか。考えるだに恐ろしい。羯南よ、あなたの人を見る目が、あなたの大英断が、試金石となり、今日の短詩系文学の礎を作ったと言えよう。俳句の最末端に連なる者として、羯南の先見の明、大英断に感謝してもしきれないと思う。

子規庵・大龍寺を訪ねて

仲山 富夫

子規庵を訪ねて

子規との出会いは、「歌よみに与ふる書」だったと思う。今回、講座を受けて、子規の文学への並々ならぬ思いとその業績の偉大さを改めて知った。同時に、不勉強な歌しらずの自分を恥じた。

子規の座机を見た（複製）。

明治32年、子規が根岸の指物師に作らせた机、子規の左足は曲がったまま伸びなくなっており、立て膝を入れる部分をくり抜いて作られていた。それを見たとき、胸がつまってしまった。家の中は撮影禁止であったため、お見せすることができない。小さな前庭へ出た。正岡家使用井戸跡があった。水は張られていないが、小さな草花が井戸を囲む板塀の中で咲いていた。母八重、妹律が水を汲み上げた日々を思った。

棚に糸瓜が一本生っている。

子規絶筆三句を読む



糸瓜咲て痰の
つまりし佛かな
痰一斗糸瓜の水も
間にあはず
をとどひのへち
まの水も取らざりき

白い蝶が一頭、草花の中を見え隠れしていた。思わず「子規さん、見てますか」と言ってしまった。小さい庭を一回りしたら、蚊に喰われていた。

大龍寺を訪ねて

正岡家の墓、子規居士の墓、そして、母八重の墓の三基が、横に広がる篠竹の前に静かに在った。篠の竹は7月の空の青さのなかに映えていた。丈は5メートルもあるだろうか。栗田 博行講師が熱く熱く、小説『坂の上の雲』の子規の墓



にまつわる箇所を読み上げてくださった。子規居士の墓の真上、一番高く伸びた三本の篠竹の緑色の葉が空を指していた。病苦を超えて、沢山の俳句や短歌・文章を綴り、多くの友人、門弟と過ごし、つくりあげた子規の近代文学を今一度拝誦する時間を持ちたいと思いながら田端駅へ向った。



古典講座「万葉集」を学ぶ

【葵の会】

小林 典子

葵の会が小川達雄先生に万葉集を学ぶのは、平成22年の4回と、本年6回の計10回である。このうち前回の①「万葉集人気第一の歌」と、本年の⑨

「山上憶良の声」を取り上げる。

①は、現代までに発行された万葉集の「選歌集」に最も多く登場する志貴皇子の、「石ばしる垂水の上のさ蕨の萌え出づる春になりけるかも」(いわばしるたるみのうえのさわらびのもえいづるはるになりけるかも)である。皇子は天智天皇の子。垂水は滝の謂いで命に幸いをもたらす、命を新しくする＝霊泉と考えられていた。この歌の題詞に、「志貴皇子よろこびの御歌」とあるが、新しい褒賞を戴いた皇子の新生の喜びが春の到来の喜びと共に息づいている。

⑨は、憶良の代表作「貧窮問答歌」(長歌)の現代語訳抜粋を以下に記す。

「……月日は明るいというが、私には照って下さらぬのか、人皆こうなのか、私だけこうなのか。たまさかに人に生まれて、人並に手足も揃っているの



山上憶良 石碑

に、粗末な肩衣の海松(みる)のように裂けて下がったぼろだけを肩に掛け、地べたに藁を解き敷き、父母は上座の方に、妻や子は下手の方に寄せあつて、かまどには煙も立てず、こしきには蜘蛛が巣を作り、水を蒸すすべも忘れて……鞭を持つ里長めの声は寢床まで来て喚き立てる。こんなにも辛いものか、世の中の道というものは。」

「日本の古代において、庶民の窮乏ぶりを生々しく訴えた憶良は、稀にして優れた思想家で、万葉集の中でも特に注目したい」と小川先生はおっしゃる。

この他、美しい景色を詠んだ山部赤人や防人等の庶民の哀歓など、心に沁みる歌の数々は、できるだけ語んじられようにしていきたいと思っている。

一寸庵閑話

▼『シェイクスピア』と私は書きません。『シェイクスピア』と書きます。作品を全訳した小田島雄志先生の表記に従うし、shakeの発音記号も『シェイク』ですから。私のペンネームはシェイクスピア、つまりシェイクしたビールです。シェイクしたビールはアワを『ふき出す』→笑いに通じる→私のペンネームにピッタリでしょう！(＃^．^＃)▼正岡子規講座を受けました。子規は几帳面で勉強家、好奇心旺盛で筆まめ、心配りする男でした。ペンネーム(雅号)をたくさん持っていました。本名は常規。それを常規凡夫(じょうきぼんぷ)としたり、浮世夢之助、四国仙人、八釜四九、面読斎(めんどくさい)、漱石(これは後で親友夏目金之助に進呈します)などユーモアも持ち合わせた男です。▼シェイクスピアもユーモアが好きで、言葉あそびを1作品に平均50ほど散りばめているとか。18才で26才の女性とできちゃった結婚し、双子をふ

くむ3児の父親でしたが、妻子を置いて小説家になるためロンドンで独り暮らしをした時は、よく酒場に……。この点は单身赴任した私もよく理解できます。美味しい酒(メ張鶴、麒麟山など)、肴、新潟美人、こまやかな人情とそろえば古町のネオンに誘われて…▼『広場』69号で『マロの健康法』を書いたら、ご婦人方に好評でした。でもB型のアカンところは『お銚子に乗る』いや『調子に乗る』ところですね。酒飲む人は花ならつぼみ 今日サケサケ明日もサケ(^人^)一日一升飲んだ若山牧水は『酒は静かに飲むべかりけり』といいましたが、マロは『酒はたのしく飲むべかりけり』がモットー。でもこれがモットーモットーになって……。カミサンからもらったイエローカードは何枚ダ……。ナンマイダブ ナンマイダブ (×。×)

▼江戸時代の儒学者・佐藤一斎は『老人は元気が衰えるから酒を飲んで元気を養うこと』とおっしゃる。シェイクしたビールではなく生ビールを飲んで元気を養うことにしましょうか。

(ケン・シェイクスピア)

【市民大学は今】

グループワーク

研究テーマに挑戦中！

第21期企画委員

二上 拓夫

2年次が始まって4ヶ月になり、いよいよ各グループ、テーマの絞込みの時期になる今日この頃です。各グループがどのような活動を行っているか、ちょいっと覗くことに致しましょう。

【食と農業の将来】

食の安全・安心をテーマの軸足に、無農薬や農薬メーカーの調査を行っている。食の安全に関するアンケート調査をかなり広範囲に実施中、調査項目も多彩である



【音楽】

作曲家ブルームスを取り上げて、テーマに基づく学習をしている(テーマは?!秘密である)。工場見学を行った。村松フルート工場・武蔵音大楽器博物館・ベヒシュタイン・ピアノ工房八王子

【所沢の元気な町づくり】

出前講座を受講(市の商業、観光、文化財、歴史、都市計画マスターズプランなど)。「市政はどのような

町づくりを考えているか」、「元気な街とは、人とは」。この点を突き詰めている。とりあえず・・・名物のうどんを食べ歩くこと、里芋・ほうれん草など地産地消での芋煮会を実施。

【福祉】

市の介護保険について(出前講座にて公助を学習)。～いづれは我が身。しっかりと勉強～。自助と共助(共存)について学習し、法的根拠・介護の現場を視察する事を中心に行っている。

【地域の自然】

狭山丘陵を中心に調べているが、里山は人の手を入れなくても、入れ過ぎても良くないことを確認した。緑の保全はボランティア頼り……。ここにも高齢化の波が(緑のパートナーづくり)。

【美術】

印象派についての知識を広め、書籍を読み、DVD映像による視聴覚学習……。～目利きの目～

【所沢の歴史】

市内の6ヶ所(歴史の背景など)を考慮してテーマを考えながら実地調査。埋蔵文化財調査センターなども見学した。9600歩き、「歴史のあゆみ」を感じたところ。

【市民大学は今】

6月3日開講式 第22期始動！

第22期企画委員

田口 元

第22期市民大学の開講式が6月3日(火)、午後1時30分から開催されました。受講生は厳正な抽選を経て選ばれた80名です。3回目のチャレンジで合格という方もおられ、そんな話を聞いて選出された受講生のなかには、「ラッキーにも1回で合格した」と喜びを受講生同士で語っておられる風景も見られました。一方、受付の1時間も前から来られた方も多数おられ意気込みも感じました。

開講式では、市民大学学長の内藤教育長から「積極的に学ぶ意識をもって受講され、2年間に仲間、友人を見つけ今までと違った見方の生活の発見を希望します」とお祝いのメッセージが述べられました。また、所沢市の活気がやや落ち込み傾向のなかで、出版大手の「KADOKAWA」や医療機器トップメーカーの「日本光電」の進出の動きがあると、文化的にも雇用の拡大にも期待できる明るいニュースが紹介されました。



つづいての特別講演では、高橋玄洋先生の「市民の手でつくられた市民憲章」と題してのお話しでしたが「市民憲章」にはふれられず、人生を考えるうえで大切な「五計」について話されました。受講生が人生の

ピークを過ぎた「五計」のなかの「老計」の段階であるとみて、「如何に人生を老いていくか」まさに心の中を読まれたような示唆に富むお話しでした。きっと「市民憲章」は忘れたのではなく、憲章の文言に刻まれた胸の内をお話し

されたものと思います。

すでに第1回「放射線の科学」の講義が始まり、つづいて課外授業、自由企画と22期企画委員の練り上げた講義が展開していきます。市民大学は、受講生と企画委員の協働作業によって織りなすものの、これからの展開に期待しています。

サークル活動計画

興味のある活動に参加してみませんか？

アジア研究会(杉浦正紀 2949-5560)

7月16日(水) 定例会 13:30~16:30
中央公民館

8月は例年通り「暑気払い」を予定しております。
詳細は後報にて

公園を楽しむ会(渡部正俊 2921-3014)

7月24日(木) 八国山緑地近辺の散策
9時05分所沢駅2階改札口集合
8月28日(木) 定例会と暑気払い

地域の自然を考える会(広沢正己 2939-9181)

7月12日(土) 梶谷八幡湿地草刈り 8:00~
早稲田湿地ホテル観察会 18:30~21:00
7月22日(火) トトロ12号地 管理作業 10:00~12:00
7月26日(土) 梶谷八幡湿地草刈り 8:00~

地球環境に学ぶ(塚本二郎 2942-3117)

7月15日(火) 定例会9:00~11:00 新所沢東公民館
・10月8日(水) の福祉バスによるエコ見学会の詳細
打ち合わせ、他。
8月は夏休みとします。

野老澤の歴史をたのしむ会(小倉洋一 2949-4695)

8月7日(木) 渡辺先生を囲む座談会「維新直後の所沢社会」
新所沢公民館 15:00~17:00
・講演終了後、懇親会「天狗 新所沢店」

懐かしの映画・鑑賞会(二上拓夫 080-1250-6151)

7月8日(火) 10:00~12:30 西新井町公民館
「邦画 八甲田山」(77年) 高倉健・北大路欣也・三國
⇒当日前期修了・暑気払い「そうめん流し」開催
後期は9月9日(火)「続・三丁目の夕日」上映予定

北欧の会(樋口俊夫 090-6483-7993)

7月、8月 休会
第51回例会 9月27日(土) 13:20~
東海大学北欧学科の学生留学体験記など
場所 新所沢東公民館

歴史散策クラブ(大河原功 2943-2004)

7月26日(土) 座学、再び大石氏について(門内氏)
&暑気払い 集合:新所沢東公民館、9:30
8月17日(日) 観音と薬師の里を訪ねる
集合:小手指駅南口 9:00

食を通して所沢を知る会(鷹田良彦 090-5550-8015)

8月5日(火) 定例会(暑気払い)
場所:エコファーマーズカフェ
時間:午後4時予定
9月2日(火) 定例会(出前講座予定)

みんなで学ぼう認知症(本多義博 090-3144-1438)

7月28日(月)13:30~生涯学習推進センター101号室
NPO法人「思いで語りの会」的野先生の座学
8月25日(月)9:00~13:00 中央公民館調理室にて、認知
症予防の為の調理教室

葵の会(池田新八郎 2940-0711)

7月10日(木) 中央公民館 13:30~16:00
古典講座「井原西鶴傑作選」第1回「日本永代蔵」
7月より6回(毎月第2木曜)シリーズで「井原西鶴」
江戸文学を学びます。興味のある方はご出席ください。

楽悠クラブ(甲田和巳 事前連絡は不要)

8月11日(月)(時)13:15~(場)中央公民館#8・9
歌劇「さまよえるオランダ人」(DVD鑑賞)
幽霊船に着想を得たワーグナー初期の作品で小沢征爾指
揮のもとウィーン国立歌劇場公演のものです。

地域の自然(加藤司則 2998-3922)

7月12日(土) 9:00~ 場所:早大・B地区
畑:草取り、実験地:萌芽除伐、ササ刈り
7月26日(土) 9:00~ 緑の森博物館(所沢市分)
毎木調査(座標測定) 林内整備

地域の祭り研究会(加藤敏恭 2923-5263)

8月15日(金) 寒川神社:相模薪能 見学会
13:00 所沢駅東口出発
入場:午後5時予定

所沢の自然と農業(清水仁一 2944-8835)

7月17日(木) 市大ファーム第1回収穫祭
8月14日(木) 定例会 13:00~新所沢公民館
※8月は実活動は休止します(夏休み)
【市民大学ファーム作業は、毎月(日、木) 9~11時】

ドラマティック・カンパニー(小坂英子 2995-1495)

7月5日(土)、19日(土) 10:00~12:00
7月5日は例会終了後に暑気払い。
8月は夏休み。
『ヘンリー六世』を読み進めます。
会場:新所沢東公民館

傍聴席(高垣輝雄 2926-7164)

①7月14日(月) 学習会、14時~16時、新所沢東公民館、
市議アンケートと選挙公約の検証(続き)。
②7月18日(金) 環境クリーン部の出前講座。
倶楽部のHP、傍聴席の例会予定をご覧ください。

民話の会(仲山富夫 090-3902-0283)

7月18日(金) 中央公民館(学習室4号)
9・10月しんとこ「いきいきクラス(暮らす)」事業参
加に向けての活動案検討
8月8日(金) 中央公民館(学習室7号)

歴史を楽しむ野老会(居田治 2903-8400)

8月29日(金) 門内先生講義と懇親会
9月26日(金) 武蔵の国府・府中を訪ねる(計画中)
10月31日(金) ところ会納会

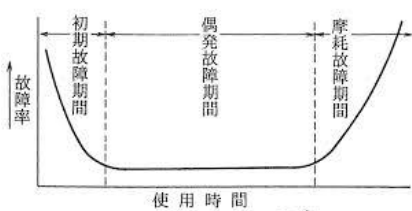
所沢シニア世代地域デビュー支援の会(田口元也 090-9820-5668)

7月15日(火)10:00~学習会「出前講座」高齢者の社会
活動が可能となる環境の整備をはかるために! (講師:
高齢者支援課) 生涯学習推進センター
7月29日(火)10:00~定例会 生涯学習推進センター

【私の健康法】 バスタブ・カーブ

《楽悠クラブ》 田村健一郎

バスタブ・カーブ（故障率曲線）とは、時間が経過することによって起こってくる機械や装置の故障の割合の変化を示すグラフのうち、その形が浴槽の形に似ている曲線のことで、一定使用期間経過後は構成要素の劣化が始まるために、故障率が増加してくる期間を摩耗故障期間という。



バスタブ(浴槽)

私自身のハードウェアは、既に摩耗故障期間に入っていると自覚しており、機械や装置のように故障部品の交換・更新も出来ないのも、警報が出る前の故障個所の早期発見・早期治療が選択肢となる。このために定期チェックを億劫がらず、予防保全を実行することが究極の医療費節約につながると信じている。①「胃内視鏡（今は鼻からスーさん）、大腸内視鏡、ピロリ菌の除去、脳ドック、PSA（前立腺がんマーカ）、白内障手術、HbA1C改善」の結果は、異常なし及びアンダー・コントロール状態である。②「朝起きた時のコップ一杯の水を飲む、朝食の主食はバナナとカスピ海ヨーグルト、副食は納豆・野菜を摂る、積極的に毎食時にネバネバ食品を摂る」を心がけ快調（快腸）を維持している。③吉川英治 忘れ残りの記より「人生とは遠くを振り返るとたいがい、皆他愛ない事に過ぎない」を人生訓として、「好い加減」をモットーに楽しく過ごし、PPKを願っている。



むさし野俳句会（二十六年六月） 明治神宮吟行作品抄



河骨の花まぎれなき水明り
日の斑さす清正の井の清水かな
樟若葉献酒の樽に迎へられ
睡蓮の影を揺らして鯉およぐ
古池の岸辺の揺らぎ蜻蛉生る
皇太后時は移れどあやめ草
日あたりて陰影深き白菖蒲
夏木立丸く映るや清正井
結界を二つぐりて菖蒲園
万緑の幹の間透ける神の杜

鈴木 すぐる
鈴木 征子
小林 貞夫
小林 典子
佐藤 八郎
白神 恵子
高橋 二加子
高梨 千代
中嶋 弘子
中村 直子

咲かむとてあやめの穂先天を向く
水無月の清正の井の深みどり
後ろ手に鳥居仰ぎぬ夏の雲
代々つなぐ樅の木涼し神の杜
初夏の杜踏ん張り分ける大鳥居
献木の百年を経し新樹かな
老鶯と挨拶交はし朝の暁
夕焼や豆腐屋らつば高らかに
天折の兄のことなどラムネ飲む
円虹を仰ぐ旅先すべて良し
平栗 彰子
荒幡 千鶴子
井出 昇
海老澤 愛之助
粕谷 のぼる
河瀬 俊彦
高 光 泉
利根川 啓一
橋本 佑子
飯泉 陽子

《編集後記》

▼編集ってこんなに楽しいとは思わなかった！編集委員が校正していくにつれ、どんどん見易く、綺麗に生き生きと新聞らしくなっていく。それに加えて、自分がこれまでに培った感性で意見を申し上げると、その意見から話が弾み、自分が考えていた以上に議論が進展する。これも楽しみの一つだ▼「広場」について一言。『「広場」は読みたい！』と、読者に訴えることが先決。1ページ目が極めて重要で、その中でも載せる写真が最も大事！カラーでは映えるが白黒では全く駄目な場合もある▼次に、『今月号は何が載っているかな！』と、読者が期待するような記事が求められる。編集長の腕の見せ所でもあり、編集委員が総力と知力を挙げて、何を誰に書いてもらうか？適任者は？と、頭を捻る所でもある▼特集も

のほないほうがよく、仮に乘せる場合中身が勝負、見出し倒れにならないような記事でありたい。先月号の2、3ページの“文化祭”の記事は、白黒で配布されたみなさんにも満足していただけたと思う！▼連載ものは、これが継続的に毎号読者を惹き付ける原動力。みなさんの最も関心事を掲載したい。そのためには、広場・HP読者みなさんの原稿を、どしどしお願いしたい。▼私は広場等の広報紙に投稿の経験がないとき、「つばさ便り」編集長である親しい同期生から、趣味についての投稿を頼まれ、しぶしぶ引き受けた。殴り書きの原稿を、「これで良かったら！」と渡したのが投稿の始まり。それ以来気楽に……。投稿経験のない方に一言、一度やって見ると癖になり、楽しいですよ！（記 岡本詔一郎）